

SGH 通信

H30.7.13 No.2

高知県立高知西高等学校

〒780-8052 高知県高知市鴨部 2 丁目 5 番 70 号

TEL 088-844-1221 / FAX 088-844-4823

URL: <http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/>

グローバル探究Ⅱ（2 年生）の取組

第 6 回 グローバル探究Ⅱ 「論理的な発表に向けて」

6 月 8 日（金）、発表の意義とプレゼンテーションの方法を学びました。

6 時間目、各教室で、担当の先生方からパワーポイントを用いた説明を受け、プレゼンテーションの意義やその方法について学びました。

- ① ある程度まとまった段階での活動成果や研究・開発の成果をアピールし、その内容もしくは自分自身を売り込む。
- ② 活動や研究途中の内容を人に聞いてもらい、議論をしたり、意見をもらったりすることで今後の活動に役立たせる。

プレゼンテーションの意義やその目的から目指すべき発表の姿、効果的なスライドの作り方の講義を受けました。プレゼンテーションとは、聞いた人達が、次になんらかの行動を起してくれる事、それがそのプレゼンテーションの「成功」です。自分たちの話す内容、喋り方、1 枚のスライドの文字数、配置など、自分たちの作りたいものと、他者に伝わりやすいものと、常に 2 つの視点を持つことが重要だと学びました。

第 8 回 グローバル探究Ⅱ 「探究過程発表会」

6 月 2 2 日（金）、高知大、高知工科大から 8 名の大学教員をお迎えし、各クラスで班ごとに、現時点での探究内容と夏休みに行う調査活動について発表し、アドバイスをいただきました。

自分たちの探究内容を 1 グループが 3 分で発表しました。助言者の先生からは鋭い質問が出され、応答も求められました。当日は、どの班も準備した内容を落ち着いて発表できました。

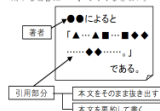
発表への計画

- ① 準備と発表のために設定された日程を確認。
- ② 発表内容を簡潔な文章にまとめて整理。
- ③ ポスターのレイアウトを考える。
- ④ ポスター下書きを作成。
- ⑤ 発表原稿を作成。

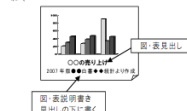
スライドの作成のポイント

④ 引用

例 引用部分を明確にするために文中で使用する場合は「」でくくるとよい。



例 表やグラフはタイトルの後に記載しておく。



発表中に使用した引用部分の文献は、最後のページに参考文献一覧をつくって表示します。これは、小さい文字でかまいません。

H30 2 年生グローバル探究Ⅱ テーマ部	
103	チャドにおける貧困状態を半減する方法を考える
104	子育てをしやすい環境を
105	アフリカの子供の栄養不足による死者を減らすには
205	チャドの識字率と基本的読み書き能力を上げるには
206	「アフリカの教育問題を解決するには」ナイジェリアを例に考える
207	ミャンマーと養殖漁業
305	サンゴが危ない！グレートバリアリーフの危機迫る
306	ツバルの水不足～水があるのに飲めない現状～
307	シリアの紛争と難民
408	日本近海の海洋汚染による珊瑚の白化について考える
409	リブドクティブヘルス
410	教育のジェンダー格差
503	教育でニジェールを豊かに
504	識字率を上げる
505	海を渡る缶詰
608	サンゴを守る
609	持続可能な社会
610	課金で世界を救えるか？
701	ギニアの識字率の向上
702	日本での同性婚は可能か？
704	世界で一番寿命の低い国、シエラレオネの医療問題について考
海外シンA	グローバル人材の育成について
海外シンB	国際競争力について
海外タイ班	「行きタイ、見タイ、食ベタイin 高知」日タイ人へ届けこの思い～

ご助言いた
いた先生方



高知大学農林海洋学部	田中 壮太 先生
高知大学農林海洋学部	益本 俊郎 先生
高知工科大学経済・マネジメント学群	上條 良夫先生
高知工科大学経済・マネジメント学群	中村 直人 先生
高知大学地域協働学部	塩崎 俊彦 先生
高知大学教育学部	森田 美佐 先生
鳴門教育大学教育学部	近森 憲助 先生
高知大学人文社会学部	岩佐 和幸 先生

【参加いただいた先生方から】

高知大学農林海洋学部 田中壮太先生



「仮説」というものをどのように捉えるのかだろうと思いますが、我々研究者にとっては、分かっていないことに対して、こういう理屈だから、このようなことになるはずだというのが仮説です。調査や実験を始める前に、科学的に話の落ちを考えておくというこ



とですね。仮説を検証するための手段として、何をすれば良いのかを考え、必要な調査や実験をします。そういった意味では、生徒さんの発表は問いは明確でしたが、話の落ちを考えきれていないものが見受けられました。そのためどのような調査をすれば良いのか、何について調べればよいのか、明確に考えきれていないものもありました。1回目のプレゼンですので、今後のがんばりに期待しています。

高知大学農林海洋学部 益本俊郎先生



たとえ確からしい情報であっても比較の対象としてふさわしくない事例がありましたね。例えば、アフリカの経済状態を比較する場合、南アフリカを比較対照にしていた。南アフリカは他のアフリカの国と成り立ちが異なるので比較しない方が良いのではないのでしょうか。いくつかのグループは何を調べるか方向性ははっきりしていましたが、先がはっきりと見えないグループであってもしっかりと受け答えをしていたので、これからの調べ学習の中で道が見えて、しっかりしていくと思います。

鳴門教育大学教育学部 近森憲助先生



提示された課題の奥底には、多様で複雑に絡みあっている要因が潜んでいるのですから、一つの要因をつぶせば、それですべて解決というわけにはいきません。発表をお聞きしていると、解決に目を奪われすぎていると感じました。課題がなぜ課題として生まれてきているのか、その奥底には、どのような要因や要因間の絡み合いがあるのか、といったことについてじっくりと検討すること、また、課題解決のためには、どのような対策が講じられているのか、また、その現状と課題はどうか、など、もっと課題そのものを見つめることが必要ではないのでしょうか。さらに言えば、課題やその解決は、生徒さん自身あるいは、これからの彼らの人生にとって、どのような意味が、あるいは関わりがあるのか、つまり課題やその解決と自分自身とのかかわりについても、考えてみてほしいと思います。

高知大学教育学部 森田美佐先生



前回参加させていただいた時よりも、より目標が明確に示されていて、頼もしく感じました。自分達の問題として取り組んでいましたね。ただ、その目標に対して何をしたいかには迷っていますね。調べるリソースはネットでももちろん良いですが、そのネット情報は信頼できるかどうかを確認することが必要です。私の専門で良ければ、お教えするリソースはありますので、気軽に相談してくださいね。

【生徒の感想から】

・大学の講師の先生に言われた「自分たちは良い、最適だと思ってやろうとしていることが、現地の人たちが本当に求めることなのか考える」という話が印象的でした。ワカ・ウォーターも問題点が無いわけではなく、給水塔自体の衛生管理や、気候的、地理的な問題がないか等、設置するまで、してから課題はまだ調べられていないので、ワカ・ウォーターの欠点を見つけられたら、それをカバーするためにどうするか、地域の人に満足して使い続けてもらえるか考えていきたいと思います。

・今日の発表で、先生から最初の方は説明がしっかりできていると言ってもらえたので、少しのことで証拠があると、より説得力が増すと分かった。最初にやろうとしてきたことから違うことになったが、調べていくなかで全く知らないことに出会ってよかった。これからは、自分たちが解決したい課題の解決方法はなんとなく分かったが、その課題はいつから生まれたものなのか知る必要がある。

